

基準点 B 課程専門技術講習会を受講して

建基コンサルタント株式会社 高 野 靖 之

昨年の水準コース（5日間）今年の基準点コース（9日間）の2年間の受講を終え、長いようで短く、とても密な合宿だったと思います。

参加受講者は昨年同様の約20名程で、昨年と同じ人数が集まり、約半分のメンバーが入れ替わり一年目として受講されている方もいます。私も昨年、受講していたので、今年初めて受講された方々は、新入社員の気持ちで参加されたのではないのでしょうか。（昨年の自分がそうだったので…）

いざ講習会が始まって昼食を終える頃には、和気藹々と仕事の話や日々の苦労話など打ち解けている感じでした。（きっかけは昼食の…笑）

講習自体も本気で？真面目に？聞いていれば、講師の先生の説明も分かり易く丁寧に説明してくださるので、あとは自分との戦いに打ち勝つかを考えれば大変実のある講習会になると思います。（笑）

私たち専門技術職の実情と言えば、基準点測量・水準測量の計算を行うのは電算プログラム等を使用し処理していると思います。正直、専門学校等を出ている方（私も含め）は、一度授業で教わっていることなのですが、やはり授業と実務では違いがあるので、手計算にはひどく頭を痛くさせられました。若干電算プログラムを開発された方々に敬意を表したい気持ちになりました。

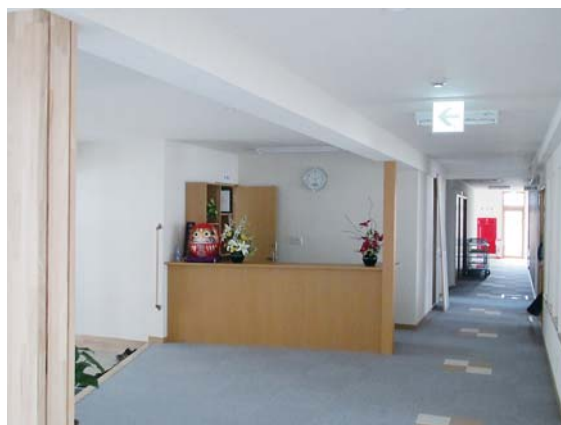
さて本講習会では、水準測量・基準点測量（GNSS・TS）を大きく分けて3段階の2年

間（もしくは3年間）をかけて行うのですが、全て講習・実習・計算と流れていくので経験者は再確認する事ができ、未経験者にも分かり易いと思います。講習も現在の実情や最新情報など、数多くの中から集約されたものを取り入れているので大変勉強になります。昨年の実習は、開催したのが4月中旬ということもあり肌寒く（むしろ寒い）防寒服が無いと少し厳しい状況でしたが、今年はGW明け（5月中旬）であった為寒さと戦うこともなく、より一層集中して作業をこなせました。使用機器は、使った事のない機器で観測したりするので、新鮮で良いのではないかと思います。計算処理は実習中に班編制した班で全て同一進行で行うので、もしわからなくなり取り残されそうになった場合、すぐに先生に聞くなり近くの人に聞けば誰もが優しく教えてくれるので問題ありません。そうしている内に他社との親睦が一層深まることと思います。そういったことにもこの講習会での他社との繋がりが、後々に役立つのではないかと私は思っております。同業他社が集い同じ釜の飯を食べ、数日間を共に過ごすことに抵抗を感じる方もいらっしゃると思いますが、より若い世代を中心にこの講習会に参加して技術向上を図ると共に他社との繋がりを作れば、長い目で見て全体的にこの業種の大きな輪を作る一環になるのではと深く感じております。限りある日程の中で全てを学ぶには大変ですが、少なくとも私たちが日々行っていることの意味を理解するには良いと思います。そして何より、

いい思い出になると思います。

最後に、指導して頂いた高野講師をはじめ開催主催の日本測量協会関係者の皆様、並びに寝

食共に過ごした受講者の皆様に心より厚く感謝御礼申し上げます。





TS による 3・4 級基準点測量講習会を受講して

(公共測量「作業規程の準則」の解説と運用)

バーム測量設計株式会社 福 原 敏 之

今回受講した TS による 3・4 級基準点測量講習会（公共測量「作業規程の準則」の解説と運用）のプログラムは、①TS による 3・4 級基準点測量の作業計画～計算整理、②諸計算、③TS による復旧測量、観測記簿～座標の概算（点検計算）、④地理情報標準の対応、製品仕様書・品質評価表・メタデータの作成、⑤電子納品です。

私はこの業界に20数年従事しています。この間、測量技術の進歩は著しく、精度の高い成果が求められる私たちの業務にとって今回の技術講習会は日々の業務に役立てる事が出来る、と

ても有意義な講習会でした。

講習会では、実際の基準点測量の選点ポイントから具体的な観測方法と各種の計算方法、製品仕様書、品質評価表、メタデータの作成、電子納品等の作成と実際に行う作業に沿った内容が説明されとても充実した講習会でした。

また、講習会時に配布された、テキストは、常時私の机の上に有り、常に読み返している、今一番の参考書になっております。

この講習会は、知識、技術を再確認できる内容になっているので、皆さんも、是非、技術力維持のため積極的に受講して見てはどうですか。



測量・地図の基礎講座を受講して

株式会社エル技術コンサルタント 松 本 浩 一

“本講座を受講した理由”と“その期待を十分に満足する内容”と題して、感想を含め述べさせていただきます。

“本講座を受講した理由”

当社エル技術コンサルタントは、今年度より『スカイキャッチャーによる空中撮影』を業務展開しております。(新技術情報登録システム「NETIS」に登録：登録番号 QS-060016-A)

『スカイキャッチャーによる空中撮影』のコンセプトは『安全』・『安心』・『安価』の3つの『安』で構成されており、お客様からご好評頂いております。

しかし、当社はコンサルタントとして『スカイキャッチャーによる空中撮影』を通し、お客様へ更なる新たな価値をお届けすることが使命と考えており、現在、模索・検討しているところでもあります。

私もプロジェクトに関わるメンバーとして、「空中写真の基礎」については最低限知っておくべきと考え、学習しておりました。

そこで本講座を知り、迷わず受講を決めました。

“その期待を十分に満足する内容”

『測量・地図の基礎講座』の名の通り、最も

基本的な「測量の基準」から導入し、「空中写真の基礎」として原理・撮影方法・計測などについて分かりやすくご説明いただき、私の目的は十分に達成できました。

さらに講座の内容は、受講者へ実体視を体感させることにまで展開して頂きました。

撮影位置が微妙に違う写真2枚を並べ、立体視鏡で覗きこむと目の錯覚により立体感が得られる。

裸眼では普通の写真だが、実体視すると、まるでジオラマを見ているような感覚は、理論を頭で分かっている、大変驚きました。

写真測量を理解するうえで、実体視を体感することがこれほどまでに有効かつ新鮮だとは思ってもよらず、とても有意義な時間を過ごせました。

本講座は、小さめの会議室で行われたため、講師の亀井先生との距離が近く、先生の熱意がひしひしと伝わってきました。

これもまた、集中してお話を聴かせて頂いた、ひとつの要因だと思います。

最後に、このような基礎講座を開催して頂いた日本測量協会 北海道支部の皆様に深く感謝申し上げます。



地理空間情報専門技術講習会に参加して

株式会社ネクシス光洋 長 野 仁 彦

私は、平成6年から測量業務に携わり、早いもので18年が経とうとしていますがこの間に急速な科学技術の発展に伴う測量技術の進歩などに対応した測量機器の普及やアプリケーションソフトの開発など、年々変化し進化していく測量技術への対応や、公共測量『作業規程の準測』の改正に伴い旧来ではなかった新技術を反映した多様な測量作業の方法、測量成果の電子化、地理情報標準に合致した測量成果の作成、基盤地図情報の整備等々が盛り込まれていますが、測量に従事する技術者として必要な幅広い知識や経験、更なる技術力や品質の向上、そして適正な業務遂行が求められています。

その中で、日本測量協会が実施する各種研修会や技術講習会の場合、我々測量技術者にとって身近に且つ的確に基礎的な知識から専門的な知識まで習得でき、時代の要請にいち早く対応した講義内容は非常に貴重であり、空間情報の計測と利活用を取扱う技術者にとっては必要不可欠な場であると思い測量専門技術の講習を受講し認定試験を受けてきました。

平成21年度より『測量専門技術認定資格』が『地理空間情報専門技術認定資格』へと名称が変更となり、今年の4月には測量協会の認定資格が、国土地理院の測量技術者として登録されたことを知り、益々資格取得の重要性を感じております。

そこで、過去に受講した講習会を簡単に説明したと思います。

☆ 応用測量 B 課程

用地測量

平成12年 1 月10日～ 1 月14日

路線・河川

平成13年 1 月 6 日～ 1 月13日

☆ 基準点測量 B 課程

水準測量・測量機器

平成12年 3 月14日～ 3 月20日

基準点測量・GPS 測量

平成13年 4 月19日～ 4 月26日

☆ 基準点測量 A 課程

測地学概論・基準点測量・水準測量

平成14年 2 月13日～ 2 月21日

誤差論・測量器械理論・工程管理

平成14年 3 月 1 日～ 3 月 7 日

GPS 測量・平均計算理論

平成15年 2 月13日～ 2 月18日

☆ GIS B 課程

GIS の概念・GIS データの作成

平成23年 8 月22日～ 8 月27日

これらの講習会を受講して感じたことは毎回『測量』の奥深さと『日々勉強』なんだということを感じさせられています。

また、これら講習会を通じて普段ではお付き合いのない全道各地から受講のために集まってきた同業者の方々と知り合うことができた『基準点測量 B 課程』では、普段地元では聞くことのなかったような色々な興味深い話、夜には温泉に行ったりお酒を飲んだり、寝る間を惜しんで勉強したりと講習期間は講義・実習・復習

・試験対策の勉強と全然気の休まる暇がなく、今思えば大変に思いながら受講していた記憶が蘇ってきました。

しかしながら同室した受講者の中には前年度から参加していた方もおり、講習の仕組みや講師の先生の特徴など『有珠観光館』での過ごし方や勉強で解らないことなど様々なことを教えて頂きながら、大変ながらも充実した講習生活を送ることができました。

次年度には、続けて基準点測量 A 課程を札幌で受講しましたが、当時は B 課程で知り合った方々何名かと同じ場所に宿泊し、長期間の講習を受講することにしました。

講義は前情報の通り、B 課程と違い A 課程は全てにおいて難しいと聞いていましたがまさに、言われた通り自分にとっては非常に難易度の高い講義でした。

基準点測量 A 課程ともなると、参加者は全員が『必死』です。

受講料と宿泊料を会社で負担してくれている方、全額自費で受講している方など置かれている立場は人それぞれで違いますがみんな必死で講義を受講しています、試験のない講義では居

眠りしている人を良く見かけるが、A 課程に至ってはみんな必死に勉強しています。『凄い』と感じました。

今年は、会社からの勧めもあり前回受講した基準点測量 A 課程から 8 年ぶりの長期にわたる講習会『GISB 課程』 I コース (Web 講習) を受講しましたが、やはり大変でした、仕組みを理解して記憶に残す作業が、年々記憶力が低下している自分にとっては非常に苦勞しました。

今回の講習会で学び得た成果と既に取得した認定資格を今後に生かし、時代とともに変化し進化し続ける測量技術に遅れをとらないように日々新しい知識と技術の習得に励んでいきたいと思います。

最後になりましたが、なかなか理解のできない自分たちを最後まで親切に面倒を見て下さった講師の方々と毎晩宿舎で共に勉強に励んだご友人の方々、講習会参加にあたり協力してくれた会社と同僚、主催して頂いた日本測量協会の方々に感謝するとともに、測量業界の発展のためご尽力いただきますようお願い申し上げますとともに、これから受講を予定されている皆様の御健闘をお祈りいたします。



